

2024（令和6）年度 学校評価の重点目標・評価項目・評価の観点

学校教育方針	中・長期目標	次年度への課題
- 本校は、教育基本法並びに学校教育法に則り、新しい時代に相応しい健全な家庭人、有能な社会人として、教養豊かな女性教育を育成することを目的とし、特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。 - 建学の精神「うつくしく生きる」を基とした教育活動を行う。浄土真宗の教えに基づいた仏さまの教えを通して「大切にされているわたしに目覚めていのちを輝かせる」教育活動を実践する。 - 地域から愛され、選ばれる学校を作る。	- 教育方針を基本とし、時代に即した教育を行う。 「建学の精神」の具現化に努める。 「和顔愛語」「先意承問」の精神の具現化に努める。（和やかな顔・表情、美しく優しい言葉、相手の立場に立って誠意をもって立居振る舞う） 「B・A・S・E」(勉強・挨拶・掃除・笑顔)4つの基本を大切にする。 「いのち」「時間」「ことば」を大切にする。	本学園の建学の精神「うつくしく生きる」を教育活動の中心におき、その具現化に努めていくことは、本校にとって引き続き大切なことである。そのためには、全職員が浄土真宗の教えを積極的に学ぶ場面を持つことも必要だと考える。
	今年度の重点目標	
	「建学の精神」の共有 - 入学者の確保 - 教育の質の向上 - 生徒に対する支援の充実 - 地域貢献・地域連携活動の推進 - P T A ・同窓会との協力 - 進路支援の強化・充実	

《達成度 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：不十分》

【事業目標1】建学の精神「美しく生きる」の理解を深め、常に意識する							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
宗教行事	釈尊降誕会・報恩講への全校生徒と全教職員の積極的な参加を行う	校長・宗教科・学生会	1	宗教行事に積極的に主体的に参加することができたか。	B	宗教行事の運営においては、宗教科だけではなく教職員や生徒会役員、生徒と一丸となってお勤めすることができた。東本願寺研修はスタッフのお力添えもあり、今年度も「私の原点と訪ねる研修」を行うことができた。HR活動においては、今年度より宗教科から伝道掲示板の「解説・味わい」を示し、日々の生活の中にもこそ念仏の教えがあること感じてもらう機会となった。教職員対象の学習会が釈尊降誕会・報恩講前に実施する予定だったが、釈尊降誕会前には実施することができず、後日実施することになったことは反省である。極力行事の前に実施し、教職員も「私事(わたしごと)」として行事と向き合う姿勢を育んでいきたい。	・1年生の「東本願寺研修」はもちろんのこと、他の宗教行事も本校において大変重要な行事であることを、全学年通じて理解し、取り組むめるよう、意識づけさせていきたい。また、そのためには教員間の意識も確認する必要がある。 ・計画的な教員対象学習会の実施。(宗教科)
学校行事	「東本願寺研修」(1年生)を通し、本校が存在する意味を理解し、そこで学んでいく意義を探す。		2	本校で学習以外に何を学ぶのかを理解できたか。			
通年	「仏教」の授業はもちろんのこと、その他の授業や行事・課外活動においても、全て仏教の精神がその根本にあり、その考えのもと教育活動を行う。		3	全校生徒と全教職員が本校で学ぶことを理解しているか。			
宗教研修	初任研修・宗教研修・宗教担当者研修への積極的な参加。	管理職・宗教科	4	研修で得た知識、発見から、自ら本校で仕事をする意義を考え、伝えることができたか。			

【事業目標2】B(勉強)A(挨拶)S(掃除)E(笑顔)の基本を大切にする							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
BASEの確立	普段から「勉強・挨拶・掃除・笑顔」を意識し、学校生活を送る。	学生会	5	何のために勉強し、挨拶し、掃除し、笑顔であるのかを自覚でき、実践できているか。	A	・3年間、「勉強・挨拶・清掃・笑顔」を「BASE」というわかりやすい言葉で日頃から意識させていったため、多くの生徒に浸透し実践することができた。	・生徒に意識させる前に、教職員が常に意識し、行動することが大切だと考える。

【事業目標3】南無阿弥陀仏の教えを学ぶ							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
心の豊かさ	「いのち・時間・ことば」を大切にする。	学生会	6	自分の人生を大切に生きているか。	B	・仏教の授業や宗教行事、修学旅行の事前学習などを通して学ぶことができた。しかし、普段の生活などから継続的に自分を見つめ、考えさせることまではできなかった。	・宗教行事や仏教の授業といった特別な時間・行事だけでなく、普段のHRや授業、様々な場面において、継続的に教員が想いを伝えていくことが必要。

【事業目標4】入学生数の安定を図る（教職員全員が募集活動）							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
特色の明確化	私学・仏教・女子教育を明確に打ち出す。	管理職・生徒募集	7	地域から、理解され、認められているか。	C	受験者数・入学予定者数ともに過去最低の値を更新する形になってしまった。本校の評価として「面倒見がよい」「安心して通わせることができる」等の意見もあるが、逆に「私立なのに充実していない」「説明会の内容と違う」「進学を薦めることはない」等の意見もある。今後ヒアリングやマーケティングを継続し、ウイークポイントの改善とグッドポイントのアピールをしていく。魅力ある学校作りのためにも指導力の向上を目指し、内部充実をはかる。入試広報、入試制度の見直しを行うとともに、広報が誇大広告にならないよう内部充実を図る必要がある。一方で、新入試の導入やEクラスについての校内オープン会議を開き、勤続年数の浅い教員を中心に一定の参加者があり、前向きな議論が展開されたことは大きな成果であった。また、学内塾、留学はアンケートの結果分析から一定の集客効果があったと考えられる。	地域から理解されるために、本校の目指す姿や求める生徒像を言語化し、発信していく活動を行う。また、本校の活動を外部に向け可視化するために、ホームページの更新や各種SNSでの発信も視野に入れる。本校への関心が薄い層の獲得をめざし、入試広報関連行事の回数を増やし来校の導線を確保する。また、現状に危機感を抱き入学生確保に向け意欲的な教員が多いことも分かったため、オープン会議などで積極的に意見を吸い上げ、改革を加速度的に進めていく。 来年度から新たな入試制度を導入予定。
入試方法	本校独自の入試方法を行う。	管理職・教務・生徒募集	8	入試方法の改定が中学校側に理解され、多くの受験生があったか。			
コースの見直し	進学コース特にEクラスの見直しと内容の検討を行う。総合コースという名称を新たなものにするように検討する。 進学コース特にEクラスの見直しと内容の検討を行う。	管理職・教務・生徒募集	9	平成30年度入試より新進学コース(S・E)が開設され、入学者が増えたか。教職員で改名や内容について検討できたか。			

施設設備の充実	学習活動・課外活動がより安全に効果的にできるように施設の充実に図る。	管理職	10	施設の新設か耐震設備が取り壊すかの議論を行えたか。 自習室の設置・拡充ができたか。 講堂の新築・改築、耐震設備等の議論を行えたか。 合宿棟の改築・耐震設備等の議論を行えたか。	C	検討は行っているが、資金的な問題もあり、進んでいない。今後、講堂で実施している活動について、他の施設を利用して実施できるかなどの利用しない方向性も引き続き検討していくことが必要。	クラスの関係もあるが、自習室の設置の検討は必要。
---------	------------------------------------	-----	----	--	---	---	--------------------------

【事業目標 5】 個々の学力・人間力の向上を目指し、進路の実現を図る							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
学習習慣の確立	新教育課程に即し、本校独自の教育を行う。ICTを活用しての「個々に応じた学び」を行う。探求活動を積極的に授業に取り込む。 時代に沿ったカリキュラムの検討を行う。	教務・進路	11	新教育課程に応じた学びが実行できたか。 教職員で内容について検討できたか。	C	ICT活用については、基本的にロイロノートで対応はできる。情報過多になっているので次年度はteamsの生徒利用を実施していく。 (教務)	志望校進学実現のため最後の一般選抜まで生徒を励ましなが
	「高等学校基礎学力テスト」の改定に備え、全生徒の基礎学力を向上させる。		12	「高等学校基礎学力テスト」の結果を踏まえ、更なる指導にあてたか。		大学入学共通テストの対策として模擬試験の実施だけでなく、冬休みに各教科で特別指導を実施してもらった。	一緒に受験に取り組むことが大切である。その一方で早めの受験対策を意識させて、具体的に実行にうつさせ、それを継続させる指導も行なっていきたい。そのために綿密な面談の実施は欠かせないと考えます。(進路)
学力向上	「大学入学共通テスト」に備え、全生徒(大学進学希望者)の基礎学力及び応用力を身につける。		13	事前に模試を実施し、「大学入学共通テスト」の結果を踏まえ、学力を向上させることができたか。		近年受験者数が増加傾向であったが、今年度は例年の半分ほどに受験者が減少した。入学時には国公立大学を希望していた生徒も学年が上がるにつれて諦めていく傾向は改善できていない。	「高等学校基礎学力テスト」については文科省からの指針がイマイチである。今年度からリクルートのスタディーサプリを導入予定で割ったが、拠との兼ね合いもあり断念。不登校指導、映像教育での単位認定にも利用できるのですみ分けしながら導入を考えていく。
	地域学習塾と連携し、幅広い生徒層への学力定着・向上を目指す。 (評価指標)		14	生徒の希望する志望校に入学させることができたか。 補習を受ける生徒を減らすことができたか。		概ね生徒の希望している進路を実現できていると考えられるが、入学当初の志望校への進学が実現できているかは疑問である。高校生活を送っているうちに進路志望が変わり、前向きに進路変更をする生徒も多いが、模擬試験を受けているうちに理想と現実を知って進路変更をする生徒も多い気がする。	(教務)
進路指導	学習指導要領に応じて、アクティブ・ラーニングや資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメントの研究と実践を行う。また高大接続改革を推進すべく、そのための研修会などにも全教職員が取り組む。 (評価指標)		15	新しい時代に相応しい人材を育成できたか。			
教職員校内外の研修・教養法の研	各教科研究授業を行い、教職員が見学し、反省会を行う。	教務・管理職	16	自らの授業の糧にし、その後の授業に生かされたか。	B	研修については複数の教員がスキルアップのための研修に参加し、職員会議等にてアウトプットを実施した。	授業公開など、積極的にいける機会を増やしていくことが大切。
	研修後、インプットしたことを、口頭もしくは文書でその他の教職員にアウトプットし、身につけた教養を共有できるようにする。		17	発表者の教養が他の教職員に伝わったか。			

	PTA 向けの授業公開や公開講座を設ける。	教務	18	多くの保護者に授業見学の機会が与けられたか。 見学された保護者から意見や感想を聞き取れたか。 本校の授業を受けた保護者が、生徒と同じような立場で授業を受けることにより、学校・教員理解につながられたか。	—	公開授業については、今年度は5月と11月に合わせて6日間開催した。見学希望者は延べ119名であった。主旨としては、1日に大人数を受け入れると駐車場の確保が難しく、また交通整理に職員を当てられないので1日当たりの人数分散を考えた。名札を事前に配布し、1限から6限まで登録してもらうようにした。保護者の声は概ね今回の形に賛同してもらえた。	公開授業については、ゆくゆくは安全性と対応の簡素化を担保することを前提に、いつでも見学してもよいようにできるとよい。来年度はとりあえず今年度と同じ方法で実施する。 公開授業については、学校・教員理解にどこまで影響があるのかをきちんと判断してからの実施を検討。
--	-----------------------	----	----	--	---	---	--

【事業目標6】 基本的生活習慣の確立／自己肯定感・自己有用感の育成／自利利他の精神							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
基本的生活習慣確立	欠席・遅刻・早退の原因を把握して、適切な指導を行う。	生徒指導・特別支援・学生会	19	欠席・遅刻・早退が減少したか。	B	欠席・遅刻等については、該当生徒に具体的に数字を伝えるなどして改善が見られた。 ・身だしなみについては、着崩して着用する生徒は少なくなっている。しかし、郊外ではスカート丈が短かったり、ジャケットのボタンを開けている生徒がいたりするので今後の課題である。また、月曜日の服装も徹底してきているが、ソックスの意識が低い生徒もいる。 ・学校生活アンケートを年3回行った。記名式であるため、ピンポイントに話を聞くことができた。同学年の様子を知ることでもき担任以外の先生方とも情報共有して生徒対応できた。(生徒指導)	・身だしなみについて、年度初めに連絡はしているし、教室に掲示もあるが、月曜日の準正装など中々新覚しないところがあるため、その都度声掛けを行う。 ・生徒の様子は日々変化があるため、報告・連絡・相談をかわらずに行っていく(生徒指導)
	身だしなみについて日常的に意識させる。		20	清楚で TPO に応じた高校生らしい服装ができているか。			
初級段階事前指導	ホームルーム・授業・クラブ活動など学校生活の諸活動の場面で生徒の変化に気づき、適切な対応を図る。		21	早い段階で生徒の悩みを見つけ、解決できたか。			
心の安定指導	様々な不安や悩みから言動に変化が表れる生徒に対し、教員が1対1での対話を通じて心の安定を図る。		22	不安や悩みを持つ生徒が安心して相談でき、その相談が解決に向かったか。			
全教員の連携	全教職員が学年や係などのそれぞれの立場で連携をとり、指導にあたる。		23	不安や悩みを持つ一人の生徒に対し、教職員が把握し、指導にあたれたか。			
生徒クラブ活動等の参加	生徒の自主的活動を促す指導をする。	学生会・課外活動	24	全生徒が課外活動に積極的に参加し、教室以外に自分の居場所を確保できているか。	B	・学年が上がるにつれて、人々とのつながりや、地域とのつながりを主体的に考え、活動に意欲的に取り組む姿が見られた。中学校での部活動の取り組み方も変化しており、本校での活動の取り組み方も変化してきている。(課外活動)	・中学校での部活動の取り組み方が変化してきている中、教員の働き方改革も含め、今後のクラブ活動の在り方が問われている。今後、検討が必要である。(課外活動)
	様々な場面で、周囲の人の気持ちや立場を尊重して発言し行動できるように指導する。		25				
	将来主権者として、世の中の出来事に関心を持ち、行動できるように指導する。		26				
活動運営方法	生徒会・クラブ活動など生徒の自主的な組織のルールやマナーを守り、民主的に運営されるような指導を行う。		27	その活動を通して、社会性、遵法精神を身につけたか。			
文化祭の取組方法	本校文化祭の意義や理念を知り、それを実現するために努力できるような指導を行う。		28	文化祭を通して、生徒個々が人間的に成長できたか。生徒が主体的に企画・運営に携わっているか。	B	・生徒会役員はコロナ禍での文化祭を経て、新たな形の文化祭も含めどう運営していくか考え、全校生徒だけでなく来校者に満足してもらえるよう企画を提案し、実	・コロナ後の時代や環境の変化に対応したスタイルの文化祭の検討が必要かもしれない。(生徒会)
	文化祭の各企画を各自が立案、準備、運営、協力で尽力できるように指導する。		29	全体目標に対し意思統一			

	文化祭の係分担について各自が自分の役割を理解し、責任を持って仕事を実行するように指導する。		30	して役割を果たせるか。 来校者の満足感と、各生徒の充実感・達成感の両立が できているか。		行していた。その結果、多くの来校者を迎えることができ、生徒自身も楽しむことができた。(生徒会)	
	生徒の充実感や達成感と共に高い文化レベルを追求するように指導する。		31				

【事業目標 7】 地域と連携し、地域に貢献できる学校を目指す。また地域に開かれた学校作りを行う							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
地域連携 PTA 関係	地域行事、ボランティアに積極的に参加する。	課外活動	32	本校の理解を深められたか。	B	学校長をモデルとしたポスターを作成したところ、PTA 幹事を中心に地域の事業所等で掲示にご協力いただいた。HP の更新も行ったが、更新頻度の向上に向けた仕組みづくりの必要性を感じた。りんごんでは大賞を受賞し、地域のイベントの活性化の一助となった。	PTA の協力を上げたことは非常に大きかったので、次年度以降も続けていく。また、HP は本校の実情により近づけたコンテンツ、デザインになるようブラッシュアップする。りんごんは参加し賞を獲得するのみならず、「りんごんリーダー」として地域の小中学生とつながるような仕組みを模索する。
	広報活動の充実を図る。(HP の研究と充実・広報誌の発刊・地方紙への記事の提供など)	生徒会 ・PTA 係	33	広く地域の方に本校の活動を知らせ、理解と協力を得られたか。			

【事業目標 8】 PTA・同窓会と協力して学校運営を活発化する							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
PTA 関係	PTA 活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演会・公開授業・PTA 研修など)	管理職・PTA 係	34	PTA の積極的な参加があったか。本校の教育活動に理解と協力を得られたか。	A	・幹事の方による文化祭、強歩大会への協力は積極的にしていた。また、研修旅行などを通じて本校への理解も深められた。さらに、今年度はクラス PTA も積極的に開催され、活発な PTA 活動が実施された。	・次年度も学年・学級 PTA をより多く開催することで、保護者の学校への理解は深まると思われる。 ・同窓生が積極的に関わられる活動があると望ましい。
同窓会関係	同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。	同窓会 関係者	35	同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同窓会活動や募集活動に協力的になったか。			

【事業目標 9】 卒業生全員の進路希望の実現を目指す							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
自己理解	自らの個性や傾向性と真摯に向き合い、自己理解を深める。自らの長所・短所について自覚的に行動し、それに基づいて将来を構想する。	進路指導・学生会	36	個々の生徒が自らのアイデンティティを確立し、自己実現を目指し、行動しているか。	A	・各学年において進路ガイダンスを実施し、生徒に進路実現に向けて考える機会を作った。 ・外部講師による就職ガイダンス、面接指導により、就職者 22 名のほとんどが 1 回目の試験で合格することができた。また、試験前の意識づけもできた。 ・4 年生大学に学校推薦型選抜や一般選抜でチャレンジし、合格する生徒が多かった。受験先など、生徒への受験指導は担任だけでなく複数の教員が関わることの重要性がより強く感じられた。	進路ガイダンスの内容について、進路指導だけでなく、学年会も主体的に考え実施できるとよい。特に 1 年生は、毎年の踏襲で進めるのではなく、生徒がより深く考えられるような内容になる工夫が必要。 就職希望者は、今後も 2 年の段階から授業などで扱うことにより、効率的に指導していきたい。 特に 3 年生では、受験校の選び方など、生徒だけでなく、保護者にも理解してもらえるような機会を増やせるといい。
受験対応策	校外模試や検定試験を積極的に活用する。面接や小論文に必要なコミュニケーション能力・一般的な知識・論理的な思考力を向上させる。		37	入試・就職試験に合格すべく、基礎力・応用力を身につけたか。			
進路情報提供	進路ガイダンス等を有効に機能させる。有益な進路情報を然るべき時期に、生徒・保護者に向けて伝達する。		38	将来に向けて、個々が考え出すタイミングで、有効な進路学習や情報を提供できたか。			
大学進学支援	大学入学共通テストに備えて、カリキュラムの見直し・改善・再構築を図る。	進路指導・教務	39	進路実績の向上が図れたか。			

就職活動支援	就職観や労働観を健全に育む。自らの人生を真剣に考え、どのような職業に就くべきか考察する。	進路指導・学年	40	就職希望者の全員が合格を得たか。			
--------	--	---------	----	------------------	--	--	--